

中岳



Top contents

第37回九州八市歯科医師会役員連絡協議会	3
平成30年度 第2回 学術講演会	6
救急蘇生講習会	16
平成31年 熊本市歯科医師会新年懇親パーティー	20



CONTENTS

巻頭言	蔵田 幸一 監事	1
会長指針		2
第37回 九州八市歯科医師会役員連絡協議会		3
第15回 スペシャルオリムピックス日本・熊本地区大会		4
代診派遣制度を利用して		5
平成30年度第2回学術講演会		6
第20回 日本歯科医療管理学会九州支部総会・学術大会		11
平成30年度第2回国立病院機構熊本医療センター・熊本市歯科医師会連絡協議会		13
熊本市市民健康フェスティバル		15
救急蘇生講習会		16
平成30年後期歯磨き巡回指導		18
平成31年熊本市歯科医師会新年懇親パーティー		20
スタディー		22
百周年準備委員会中間報告		25
高雄市歯科医師会、再熊本訪問		27
第50回『かめる会』展		29
『かめる会』50周年を振り返って		30
支部だより		34
新入会員紹介		35
スポーツの広場		37
会務報告		38
編集後記		

表紙のことば

山鹿八千代座のあたりを2月の毎金土曜日の夜に散策すると妙に懐しく、心引かれる光のオブジェに出会えます。(N. O)

巻頭言

弱小企業の方を向いた政策を



蔵田 幸一 監事

天皇陛下が退位されるという事で、平成最後の正月を過日迎えました。天皇陛下は、亡くなるまで天皇であるということがこれまでの常識でしたが、昭和天皇が言われた人間宣言、「天皇も一人の人間であるならば年もとるし、公務をこなすのにも無理をすることがある。」などいろいろな事情があるのでしょうか。という事で退位を表明されたのであろうと察します。ですからこの事に関しては、私はなんら異論はありません。が、退位の日程が気になるところです。皇太子殿下の即位が5月1日に決まりました。この日が祝日になり、祝日法で4月29日と5月1日に挟まれた4月30日と、5月3日に挟まれた5月2日が休日となり、4月29日から5月5日まで7連休となります。今年は日曜日と振り替え休日を入れると9連休となります。この5月1日が今年1回きりの祝日ならばいいのですが、来年からも祝日となったら、永久に7連休が続く事になります。月は跨ぎますが、普通の日曜日を入れると1カ月の3分の1は休みになります。昔からのことわざに、「働かざるもの食うべからず」というものがありますが、3分の1も休んで丸々1カ月分の給料をもらえるなんて、サラリーマンはもちろん、我々のところの従業員も含めてですが、嬉しさこの上ない事でしょう。それに引き換え我々弱小企業者は、休めば収入はゼロ。だからとって、休日に診療すれば従業員に休日手当を支給しなければならなくなります。5月1日の祝日が今年1回きりの祝日であってほしい、これ以上休みが増えるのは困ると思っているのは私だけでしょうか。

話は変わりますが、今年4月1日からは働き方改革法案で年間の有給休暇消化日数が5日未満の従業員については医院側から指定して有給休暇をとらせなければならなくなります。従業員が多数いる大企業ならば、有給休暇を与えるのには、問題は無かろうかと思いますが、我々の診療所のように従業員が数名、中には1~2名のところも有ります。この様な所で、有給休暇を与えるという事は、残った人で仕事をこなす事になり、相当なしわ寄せがきます。国の政策は、大企業の方を向いているように思えてなりません。少しは弱小企業の方を向いた政策を打ち立ててほしいものです。

ささえりあとの連携を



皆様も「ささえりあ」という言葉を耳にされた事があるかと思います。熊本市では、平成18年4月に「地域包括支援センター」、通称「高齢者支援センターさ

さえりあ」を設置しました。「高齢者支援センターささえりあ」は、平成24年4月に地域で高齢者の皆さんを支えていくという意味を込めて、市民の皆さんからの公募をもとにつけられた愛称です。地域における高齢者の総合相談窓口として、高齢者が住み慣れた地域で尊厳のある生活を継続できるよう、要介護状態になっても高齢者のニーズや状態の変化に応じて必要なサービスを切れ目なく提供する地域の高齢者支援の中核的役割を担う機関として、市内27カ所に設置しています。保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士等の専門スタッフを配置し、以下の業務を行っております。

- 1 介護予防ケアマネジメント
- 2 総合相談支援・権利擁護
- 3 包括的・継続的ケアマネジメント支援
- 4 生活支援コーディネーター業務

詳しい内容は、熊本市のホームページ等を参照して下さい。

1の介護予防ケアマネジメントとして、要支援1・2(要介護ではない)と認定された方や総合事業対象者の方の介護予防ケアプランを作成します。この項目の中に、口腔内の診査項目も入っています。しかし、実際は歯科の情報が全くあがって来ないという現状でした。そこで、昨年、行政と話をする機会があり、その時にこ

の話をしたところ、プラン作成時に本来は必要とされている歯科がほとんど関与していないという実態がわかりました。

日本が超高齢社会に突入する中、フレイル(健常から要介護へ移行する中間の段階)という概念が注目されて来ています。ここにアプローチすることによって要介護への移行を阻止、または遅らせる事ができます。この全身のフレイルの前段階としてオーラルフレイルがあります。つまり、オーラルフレイル状態にある段階で手を打てば、より効果的な対策が打てるという事です。その大切な口腔内の診査がほとんど行われていない事は由々しき事態だと感じました。そこで昨年、市内27カ所のささえりあに、担当歯科医師を制定し、積極的に自立支援型地域ケア会議に参加したり、相談窓口になっていただくようにしました。自立支援型ケア会議に参加した先生方の意見を伺うと、やはり歯科の情報はほとんど把握されていない実態を再確認させられました。私も先日、初めてこの会議に参加しました。二つの症例に対して様々な職種のアドバイザーから意見が述べられます。私自身、他職種の方の意見を聞く事ができて、大変勉強になりました。また、私は歯科の立場から発言させていただきましたが、歯科の参加が初めてという事もあり、大変熱心に意見を聞いていただきました。今後、各担当歯科医師が口腔の大切さを積極的に発言して行くと思います。それを踏まえた治療やケアの要望が、会員の皆様の診療所にも行くと思われれますので、対応をよろしく願いいたします。今後の日本で歯科が活路を見出す分野のひとつだと考えます。

他の都市を参考に、新しい事業を進めていく

—— 第37回九州八市歯科医師会役員連絡協議会 ——



終身会員の議題が参考になった

平成30年10月26日(金) 16時より、ホテルニューオータニ佐賀において協議会が開催され、会長・専務理事で出席しました。昨年と変わらぬ顔ぶれのはずでしたが、沖縄南部地区歯科医師会では、荒技で、前会長が新しく専務となり出席されていました。本会の2名は、九州八市では最長の6年目となりました。

事前提出協議題に関して、それぞれの市よりの回答・追加説明を行いました。今回は、「終身会員の年齢引き上げ」「医科歯科連携」などの関連協議が多く出されていました。

本会からは、「終身会員の年齢引き上げについて」「行政からの委託事業内容及び手数料について」の2題提出しました。「終身会員について」では、長崎市・宮崎市がすでに75歳以上への年齢引き上げを行っており、他都市でもその検討を行っている状況です。本会も今後検討すべき課題ですので、参考にしたいと思っております。また、「行政からの委託事業について」では、各都市多くの委託事業をおこなっていて、いくつかの都市では、成人歯周病健診も行って

います。本会も成人歯科健診は必要性を行政に訴えているところですが、実現にこぎつけていません。今後も粘り強く訴えていきたいと思えます。

会員数の大小にかかわらず、独自に活動を行っている他市の状況も参考にしながら、政令指定都市として、熊本市全体と各区それぞれの活動も考慮しながら、いろいろな事業を検討していかなければならないと痛感しました。



熊市歯会より宮本会長と高松専務が出席

(専務理事 高松尚史)

スペシャルアスリート達の躍動！

地域の絆ではばたけ！アスリート！ スペシャルオリンピックス日本・熊本2018 第15回 地区大会ヘルシーアスリートプログラム 歯科健診 報告

日時：平成30年10月27日(土)

13時～14時30分

場所：熊本学園大学

主催：認定特定非営利活動法人 スペシャルオ
リンピックス日本・熊本

参加：熊本市歯科医師会・町田由美子、
岡村俊之、福井偉功人
熊本県歯科衛生士会・高柳徳子、
米田桂子、西口真美



歯科健診には6名出務する

スペシャルオリンピックス(SO)とは、スポーツを通して、知的能力障がいがある人たちの社会参加を応援している国際的なスポーツ組織です。SOでは、スポーツ活動を行う障がいのあ

る人たちをアスリートと呼びます。普段のトレーニングの成果を発表する場として様々な規模での競技会を開催しています。

熊本地区大会は、8月26日(日)～11月4日(日)に開催され、ゴルフ、ボウリング、サッカー、馬術、テニス、ボッチャ、フライングディスク、自転車、卓球、競泳、体操、バレーボール、陸上と様々な競技が行われます。

競技以外にも、アスリートたちが自身の健康を意識することを目的としたヘルシーアスリートプログラム(HAP)が開催されます。これには、眼科健診、歯科健診、栄養相談やなんでも相談があります。歯科健診には、熊本市歯科医師会から3名、熊本県歯科衛生士会から3名が参加しました。

歯科健診の受診者数は十数名でした。午後からの競技にむけて、アスリートたちはそれぞれの会場に移動してしまったため、予定していたより受診者は少なかったようです。

健診は、明るく和やかな雰囲気で行うことが出来ました。受診したアスリート本人も、付き添いの方も、歯科医師に質問をしたり、話を真剣に聞いたりしていました。

また大会主催者からは、「受診された方は大変喜ばれていましたよ」と言っていただきました

た。

アスリートの方は、スポーツウェアに身を包み、はつらつとしているように見えました。社会に参加し、自分を表現できることに喜びを感じているようでした。

私は、障がいがある方と触れ合うと、いつも心が洗われ、とても気持ちよく感じます。またアスリートたちの健康に貢献できることを大変うれしく思いました。

アスリートの皆さん、精一杯はばたいてください。



明るく和やかな雰囲気健診が出来ました

(地域学校歯科保健 福井偉功人)

～ 代診派遣制度を利用して ～

10月のとある日、雨上がりの坂道で足を滑らせ咄嗟に地面に手を着いてしまいました。その瞬間！今まで経験したことのないような激痛！が走り右手首がみるみる腫れあがってきました。整形外科を受診したところ「橈骨遠位端骨折」と診断され、手術をすれば2週間程度で手を動かせるようになるがギブス固定なら4週間とリハビリに最低2ヵ月はかかるとのことでした。熟慮の末、早期復帰を図るため手術を受けることに致しました。しかし、それでも最低2週間は仕事ができないわけです。急な出来事でどうしようかと思案していたところ歯科医師会に代診派遣制度があることを思い出し市事務局を通して相談しました。すると市歯科医師会の迅速な計らいにより、手術翌日から3人の先生方(田中弥興、矢毛石豊、與儀実彦)に交代で手伝っていただけることになりました。当初は2週間の予定でしたが、先生方のご厚意で更に2週間延長していただきました。

おかげで診療室を一日も閉めることなく、療養に専念することができ通常の診療ができるところまで回復することができました。院長の代わりがない歯科医院においては、病气や怪我で自ら診療ができなくなってしまうことは死活問題です。そのようなときに代診派遣制度は心強い味方となってくれます。今回、この制度を利用して本当に救われました。快く代診に応じてくださった田中弥興、矢毛石豊、與儀実彦先生、並びに迅速かつ丁寧に対応して頂いた市歯科医師会にこの場を借りて感謝申し上げます。

※熊本市歯科医師会では緊急の事故・入院に対して最長2週間の代診派遣制度を運用しています。そのため代診派遣に協力していただける歯科医を緊急募集中です。熊本県で保険医登録されていれば非会員でも構いません。(報酬あり)詳しくは市事務局までお問い合わせください。

(朝日野総合病院 酒匂賢一)

目からウロコの口腔疾患がたくさん

平成30年度熊本市歯科医師会第2回学術講演会

平成30年11月24日(土)歯科医師会館3階会議室にて、平成30年度熊本市歯科医師会第2回学術講演会が開催されました。講師に熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科分野教授の中山秀樹先生をお招きし、「口腔外科イノベーション～口腔外科疾患の奥深さをケースプレゼンテーションで解き明かす！～」と題しましてご講演を賜りました。その内容についてご報告いたします。



近い将来、ドローンで救急活動

講演はいろいろな症例のケースプレゼンテーションを主題として進行し、時にはその症例の病名をクイズ形式に質問提起され、聴講されている先生方がお答えになるという会場参加型の講演内容でした。

まず、一つ目の症例として、右下顎角部の食後疼痛ありの方のパノラマを提示され、その病名を問うものでした。パノラマ所見では、右下顎角部に拇指頭大のレントゲン不透過像が見られ、食後疼痛ありとの症状などにより、会場の先生からは「右下顎下腺由来の唾石症」という意見が出されました。中山教授はニヤリと喜ばれ、この症例の診断および治療方針について話されました。まず、パノラマでの唾石の像としてはその位置が違うこと。また、顎下腺に隣接した軟組織に、CTでは石灰化病変がみられ、

MRIのT2強調画像では強い高信号が認められること。以上より、「静脈石を伴った血管腫」が最も考えられる病名であるとのことでした。治療方針については、ひとまず経過観察とし、症状が強ければ切除などを検討するという内容でした。

比較資料として、顎下腺唾石症のパノラマ及びCT、唾液腺シンチグラフィーの画像を提示され、パノラマ上では先ほどの「静脈石を伴った血管腫」と比べ、下顎骨骨体部に近い位置にレントゲン不透過像がみられることが分かりました。



会場は満席でした

【シェーグレン症候群】

次の症例は、舌の表面が平らになり、粘膜の萎縮が見られる症例で、シェーグレン症候群が最も考えられるというものでした。口腔乾燥があり、サクソテスト(ガーゼを1秒に1回のペースで2分間噛んでどれくらいの唾液が出るか)やガムテスト(10分間ガムを噛んでどれくらいの唾液が出るか)の数値からもかなりのドライマウスであることが分かりました。日本のシェーグレン症候群の診断基準は全世界の中でも厳しいと言われており、未だに1999年の診断基準を使用しているとのこと、唾液分泌量+唾液腺シンチグラフィー+血液検査+組織検査にてシェーグレン症候群かどうかを診断します。

そして、シェーグレン症候群のような独自の口腔乾燥状態を見かけた際は、保湿剤を積極的に勧めて欲しいとのことでした。

また、歯肉や舌など、発生する口腔癌に対する放射線治療後の「放射性口腔乾燥症」の症例写真を示されました。放射線治療にて唾液腺が炎症を起こし線維化してしまい、唾液分泌の機能は著しく低下し、見た目にも舌の表面がツルツルになります。

シェーグレン症候群も放射性口腔乾燥症も症状はかなり厳しいものですが、口腔乾燥症状改善薬としてシェーグレン症候群には塩酸ピロカルピン(サラジェン)や塩酸セビメリン(エボザック)、放射性口腔乾燥症には塩酸ピロカルピン(サラジェン)を処方すると唾液の分泌が促され、口腔乾燥症状が軽減する場合があります。この口腔乾燥症状改善薬の処方の際の注意点として、少ない量から服用していただくステップアップ法による処方が好ましいとのことでした。



胸骨圧迫をとにかく繰り返すことが大事

【特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)】

77歳男性、初診時の所見として右側舌縁に25×10mmの白色病変を認め、明らかな接触痛はないが、中心部は一部硬結を触れるということでした。また、上下総義歯を装着中で、口腔内によく血豆(血種)ができるとのことでした。

初診時の処置として、病変部をJG(ヨードグリセリン)染色し、15×10mmの不染域を確認しました。

健全な粘膜組織はJG染色にて色が付きます。よって何らかの変化が粘膜に起きているということになります。次に病理組織検査を行い、重層扁平上皮の肥厚と軽度の異形成性変化が認められました。他に潰瘍も認められるが、浸潤痛は認められませんでした。

そしてその6日後の写真では、創部に肉芽様の組織が覆っており、明らかにバイオペシー後の治癒がおかしくグロテスクな状態になっており、舌の右側半分は皮下出血様の色を呈していました。

また、初診時にあった血種は消失していましたが、反対側に同様の血種が認められました。

↓
全身を見てみると、右側大腿内側の皮下出血斑を確認
↓
特発性血小板減少性紫斑病を疑い採血を施行
↓
血小板数の顕著な減少が認められる
↓
血液内科にて特発性血小板減少性紫斑病の治療を行う

この症例から、私たちは口腔内所見に捕らわれがちですが、少しでも怪しいと感じたら血液検査はもちろんですが、口腔内以外の所見も確認することが大事ということが分かりました。

※特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の治療に際しては、まずピロリ菌の検査を行い、陽性であれば、ピロリ菌の除菌を行うとそれだけで約6割の方はITPが治癒します。

【骨吸収抑制薬関連顎骨壊死 (ARONJ)】

Dixonらの報告によると、成人の顎骨での代謝回転/骨再生(リモデリング)は他の骨より10倍速く、結果としてビスフォスフォネート剤による影響も10倍となるということです。また、身体各部位における骨モデリング速度を報告しており、その中で歯槽頂部は脛骨の10倍、下顎角付近の下顎骨の5倍、下顎下縁部の下顎骨の

3.5倍としています。

リウマチ疾患、前立腺癌、骨粗鬆症など、BP製剤の投与背景を十分に把握しておくことが大事です。

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の症状が発生した時に、それからの長い期間を痛みで非常に苦しまれるよりも、患者が望むのであれば全麻下で外科的に処置をしたほうが効果が高いということです。

また、熊大病院口腔外科では、**BP製剤服用中の患者の抜歯は基本的にBP製剤の休薬はしないで**行っています。もし、その後に顎骨壊死が起こってもBP製剤の休薬をしなかったことが主たる原因とは考えていないからです。BP製剤の休薬が顎骨壊死の発生頻度を下げるといふエビデンスは存在しないとのこと。現在では全国的に、このBP製剤の休薬をしないという考え方が主流になってきています。

【急性白血病】

重要

- **歯肉出血**は急性白血病の臨床症状の場合がある。
- 急性白血病は**DIC（多量に血栓を形成する病気）**の併発によって出血傾向をきたす。
- 通常と異なる歯肉出血を認めた場合、血液検査を行うことが重要である。

発熱・倦怠感などは白血病を示唆する症状なので要注意！

DICとは、基礎疾患の存在下に持続性の著しい凝固活性化をきたし、全身の主として細小血管内に微小血栓が多発する重篤な病態のことです。そういう意味では、DICは究極の血栓症(血栓症の王様)とも言われています。DICの三大基礎疾患は、急性白血病、固形癌、敗血症が知られています。

※三大唾液腺

●耳下腺

食事の時に一番活動する
腫瘍は7割が良性

●顎下腺

安静時に一番活動する
腫瘍は5割が悪性

●舌下腺

活動のタイミングにほとんど有意差は見られない
腫瘍は5割が悪性

【甲状腺の下降不全】

正常部位に甲状腺組織が存在し、その他の部位に甲状腺組織が迷入している場合には、甲状腺癌のリンパ節転移の可能性があります、摘出をすべきです。一方で、正常部位に甲状腺組織がない場合は、単なる甲状腺の下降不全と考えられるため、摘出した場合は甲状腺機能低下を生じる可能性があり、慎重な検討が必要になります。

【放線菌症】

放線菌が絡んだ疾患の場合、悪性疾患と見間違えような骨吸収像が見られることがあります。細菌検査では鑑別がしにくく、病理組織検査にて初めて放線菌症と分かる時が多いとのこと。ペニシリン系の抗生剤の長期投与(3カ月)にて炎症の消失を待ちます。



椿委員より質問

【縦隔炎】

重度歯周炎のために右下7を抜歯した後、嚥下困難になり体温も上昇(38.3℃)した症例です。

炎症の波及経路として、右下7抜歯後感染→翼突下顎隙→側咽頭隙→咽頭後隙→後咽頭隙

(危険間隙)→縦隔 が考えられます。処置内容としては、この症例では歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・呼吸器外科の3科合同での手術になり、耳鼻咽喉科で頸部膿瘍切開排膿術、呼吸器外科で経胸膜下胸腔ドレナージを行いました。縦隔炎の処置に際して、呼吸器外科のドクターからそのご家族に対して、命が助かる見込みは50%という説明をされる時があるとのことでした。それくらい、炎症が激しい時は気道が閉塞し、呼吸困難に陥るので危険な状態だということです。我々が日常で行っている抜歯後に、このような状態に陥ることもあるということを頭に入れておかなければいけません。

【薬物誤飲】

薬物の誤飲が疑われた場合には、救急処置後に早期に消化管検査を行う必要があります。また、唾液や胃液、尿、血液などの検体を採取することが原因の薬物を同定するために必要であると考えられます。

そして、高齢化社会の進行により、認知症の患者が原因不明の口腔内や頸部の腫脹で来院する機会は増加すると考えられます。認知症では意思の疎通が困難であり、診断や治療には注意が必要です。さらに、薬物誤飲による中毒時の症状や対策についての知識が必要です。

【美容院卒中症候群 (Beauty Parlor Syndrome)】

1993年にアメリカ内科学会雑誌に、仰向けでシャンプーを受けている人が、めまい、吐き気、手足のしびれや頭痛などの症状を起こす症例が報告され名付けられました。椎骨脳底動脈領域の循環不全に関連する脳虚血症状と考えられています。

【後天性血友病】

抜歯後、一旦は止血したのち後出血し、以後止血が困難になった症例です。日本では100万人に1人の割合で発症し、高齢者および分娩後、そして、自己免疫疾患、腫瘍など何らかの基礎疾患を合併することが多いとされています。交

差混合試験にてAPTT延長を確認後、内因性凝固因子活性およびインヒビター力価の測定を行い、その測定結果と臨床症状から後天性血友病と初めて診断されます。治療は、一般的には出血症状が長期に持続することが多いため、止血療法に加えて多くの症状でステロイド投与など免疫学的な治療が行われます。しかし、重篤な出血状態ではなく、インヒビターが少量であり、また高齢の場合には凝固因子の補充やステロイド・免疫抑制剤の投与は行わないこともあります。

【メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患】

メトトレキサート(MTX)は、免疫抑制作用を持つ抗リウマチ薬で、世界的に最もよく使用されている薬です。リウマチと診断されたらまず始めに使うべき薬剤(第1選択薬)の1つであり、アンカー薬剤とも呼ばれています。

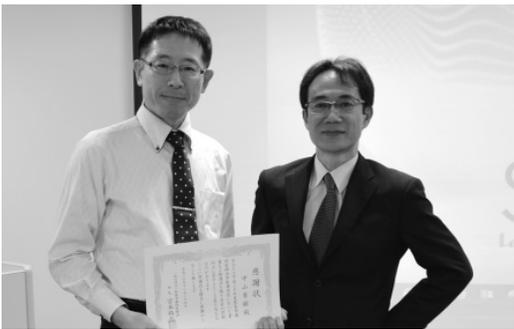
メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患は1991年に初めて報告された疾患のため、まだ広く知られていない部分が多く、発症原因は未だ解明されていませんが、このメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患が疑われる症例の約半数でEBVの感染が認められています。その発祥部位は、40～50%が節外性であり、頭頸部領域では菌肉、舌、口底などが報告されています。この疾患が疑われる場合は、処方医と相談の上でMTXの休薬を行い、自然退縮傾向がない場合には血液内科にコンサルトし、化学療法を考慮すべきである。



胸骨圧迫は崖の上のポニョの歌で120回

※多くの心筋梗塞は医者にも分からない

- 「心筋梗塞＝胸が痛い」とは限らない
- 典型的な心筋梗塞は全体の1/4くらい
- 女性の心筋梗塞の43%は胸痛を訴えない
- 肩、腕、喉、背中、時には歯が痛いことがある
- 心臓を中心に半径3 cmの範囲で痛みがある
- 「冷や汗」が出ている場合は危険な兆候
- 痛みを訴えず、吐き気、嘔吐、全身倦怠感、息切れなどを訴える心筋梗塞がある
- 糖尿病を長く患うと、痛みが分からないことがある
- 85歳以上の高齢者の場合は、胸痛よりも「息切れ」を訴えることが最も多い
- 血液検査では、発症から8時間以上たってからしか分からない



大塚理事(右)より感謝状

※CPR(心肺蘇生法 CardioPulmonary Resuscitation)

病院前人工呼吸(陽圧換気)のエビデンスには、かなりの数の蘇生症例を、BVM (Bag valve mask)のみで換気蘇生を行った症例と気管内挿

管を伴う高度気道管理の上での蘇生症例に分けて、脳に欠陥が残らない神経学的予後が良好だったのはどちらかを調べたものがあります。それによると、神経学的予後が良好だったのは、BVM (Bag valve mask)のみで換気蘇生を行った症例ということでした。

また、病院内で心肺停止した状況下においても、BVM (Bag valve mask)のみで換気蘇生を行った症例のほうが、生存率も神経予後も良かったという統計が出ており、気管内挿管は必ずしも必要ではないということになります。

ただ、過剰な陽圧換気は静脈流の低下を引き起こし、蘇生を阻害してしまう場合があります。口・口人工呼吸も陽圧換気です。

ですから、胸骨圧迫をとにかく繰り返すことが大事になります。そして、適切な胸骨圧迫の回数は100～120回/分と言われており、100回でアンパンマンの歌(そうだ おそれないで～♪)、120回で崖の上のポニョの歌(ポニョ ポニョ ポニョ～♪)のリズムに合わせて行うと良いということです。

スウェーデンにおける最新の検証では、救急の事態が起こった時に、救急車等呼んで処置を待つよりも、ドローンでAED(自動体外式除細動器)を運んだほうが到着までの時間が圧倒的に早く、より救命率が上がるとされています。日本でも近い将来、ドローンで救急活動をするというシステムが採用されるかもしれません。

(学術 関 光輝)

高齢化社会における包括ケアシステムを目指した 多種職連携の必要性

第20回 日本歯科医療管理学会九州支部総会・学術大会

第20回日本歯科医療管理学会九州支部学術大会が、平成30年11月18日(日)大分県歯科医師会館にて、大会テーマ「みんなで奏でる素敵なハーモニー最終章—地域包括ケアシステム時代における多職種連携—」と題して開催された。医療管理委員会より有働理事、森野委員が出席した。大会長の長尾博通大分県歯科医師会会長、白土清司日本医療管理学会理事長のご挨拶の後、学術大会は開催された。



大分県歯科医師会館で開催される

会員発表では、4講演が行われた。社会医療法人敬和会 大分リハビリテーション病院から「回復期リハビリテーション病院における口腔内の現状と課題」の発表があり、口から食べるために、摂食、咀嚼、嚥下センターを設け、入院から退院まで地域歯科医師会と連携して口腔衛生、機能管理を担当歯科衛生士がおこなっていることを報告された。大分県歯科医師会から「歯科医療従事者のための肝炎講座～アンケート結果より～」の発表があり、C型肝炎ウイルスは経口抗ウイルス薬で完治することやB型肝炎は一旦感染するとウイルスを駆除できない等、以前と異なった知識が必要となってきたが、会員へのアンケート等から滅菌が不十分、HBワクチン未接種率が3割、肝炎患者が歯科

を受診した時に、肝炎であることを申告しない割合が4割という結果により、今後肝炎に対する知識の向上が求められると報告された。伊東歯科口腔病院より、「当院のインフォームドコンセントの充実を図るための取り組み」の発表があり、インフォームドコンセント時に理解度チェック表を用いることで患者さんの理解度を確認し、理解度が乏しい場合には家族に追加で説明も行う等の取り組みを報告された。佐賀県歯科医師会より「アンケート調査による佐賀県における医療安全・感染管理についての現状」の発表があり、平成28年に全国調査として行われた「歯科ユニット吸水システム純水化装置の開発に関する研究」のアンケート調査を基に会員にアンケート調査を行い、医療安全講習会に参加した割合や施設基準への感心が全国調査と比較して低く、会員へのさらなる周知が必要であることが示唆されたと報告された。



パネル発表の会場

特別講演では、日本歯科医学会会長の住友雅人先生より「共通言語と医科歯科連携」と題した講演が行われた。各地で医科歯科連携が進められてきているが、医科界と歯科界の風通しを良くするために、平成28年に、日本歯科医学会の「歯科医学教育・生涯研修協議会」が医療、

介護の現場で、最低限これだけは必要とされるキーワードリストを作成したので、それを活用していただくと共に、歯科界でも共通言語の理解に努め、連携を深めて社会の発展につなげていく必要があると述べられた。



会場入り口にて。有働理事(左)森野委員

基調講演では、臼杵市医師会立コスモス病院榎本一洋先生より、「地域医療・介護情報連携ICTネットワークに歯科が参加することで何が起こるか?～うすき石仏ネットの挑戦～」と題して講演が行われた。うすき石仏ネットは臼杵市医師会が中心になって始めた病院、医科診療所、歯科診療所、調剤薬局、訪問介護ステーション、居宅事業所、介護老人施設、介護福祉施設、さらには地域包括支援センター、臼杵消防署、臼杵市役所などの公的機関の情報を共有できる地位包括ケアシステムで、人口4万人の臼杵市の参加率の高さ、データ閲覧の仕組み、データ活用による医療費削減、救急医療対策、災害対策で評価されており、歯科の参加からまだ3年であるが、口腔内管理の度合いにより健康にどのような効果できるか今後分かってくるだろうと期待していると述べられた。

来年は、沖縄にて九州支部学術大会が開催されると発表があり、閉会となった。

(医療管理 森野 茂)

世界のことわざから

恒産無き者は恒心無し

決まった正業を持たない者は、正しいしっかりした心がなく、すぐに不安定になること。

恒産は決まった職業、財産。恒心は守ることがあってぐらつかぬ一定の考え。

肯綮^{こうけい}に^{あた}中る

肯は骨にまわりついた肉。綮は筋と骨のいりくんだところ。そこにあたるというのはこの急所にあたることで、要点をつくことをいう。

傾国

もともとの意味は国を危うくするという意味だが、今ではおもに美人のことをいう。

歯科紹介率は年々上昇中

平成30年度第2回国立病院機構熊本医療センター・熊本市歯科医師会連絡協議会

平成30年度第2回国立病院機構熊本医療センター・熊本市歯科医師会連絡協議会が平成30年12月12日(水)19時より、熊本医療センター会議室にて開催されました。出席者は熊本医療センターから、高橋毅院長、大塚忠弘副院長・清川哲志先生、渡邊健次郎統括診療部長、中島健歯科口腔外科部長、そして原田正公救急救命センター長でした。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事と同委員長である私、高橋禎でした。



双方より11名出席する

まず、宮本会長より、医科歯科連携に関して市歯科医師会と熊本医療センターとの連携は医科歯科連携の先駆けであり、協力していただいていることに大変感謝していると述べられました。現在歯科医師会では、ささえりあ等、介護事業に積極的に協力している。これからもさらに充実していくためにも、医療連携の必要性を述べられました。続いて高橋毅院長より、熊本市歯科医師会の先生方に日ごろのお礼を述べられ、熊本医療センターの現状について話されました。最近、医療センターの機能評価を更新することができたと話されました。5年前よりいい評価を得たそうです。これからもさらに充

実した病院になるよう努力していきたいと述べられました。これからも医療センターは24時間365日受け入れ体制の充実や急性期医療を続け、地域医療の一翼を担うよう努力していると述べられました。

そして、協議に入り医療センターの先生方からの説明がありました。内容は、以下のとおりです。

1. 歯科紹介患者数及び紹介率について

平成30年度の歯科紹介率は10月まで47.2%でした。年々増加傾向にあり50%を超える月もありました。今までで一番多く、紹介なしの患者はいないとのことでした。院内患者は数にはいらないので、院内患者が増えると紹介率は下がることとなります。そのため歯科紹介率は40%台の値になっています。医科・歯科合計紹介率は96.1%と年々高くなっています。ちなみに26年度は82.4%でした。次に、歯科地域医療支援病院紹介率は9月までですが46.3%でした。今年度は昨年度より1%ほど増加しています。また、歯科紹介患者数は10月末迄で594名で、ひと月に80名程度紹介されています。昨年度より減少していますが、診療を予約制に移したために患者を診ることができなかったそうです。そのため、7月の時点で予約が2カ月先という状況になり、8月から予約の取り方を変更したそうです。現在は2週間待ち程度で行けるようになっていっているそうです。予約制にしたおかげで待ち時間がだいぶ解消されたそうです。予約制になったけれども、今まで通り、緊急性のある患者にはすぐに対応するそうです。

2. 歯科救急医療(救急の利用状況)について

歯科口腔外科関連救急症例の利用状況について、本年は11月末迄で227件で例年通りでした。

そのうち、歯科一般が67件、外傷が78件、その他82件でした。また、救急車やヘリで搬送されたのは68件でした。多い月で29件、少ない月で15件でした。今年は医科からの紹介患者がいつもより多く、46件という結果でした。内容は、下顎骨骨折や歯肉からの出血が多かったそうです。義歯の誤飲は疑いの方が多く、実際は1例のみでした。全体的に今年は例年と変わらない状況でした。



この連携は医科歯科連携の先駆けです

3. 歯科医師研修について

次回の第80回医歯連携セミナーは、2月21日(木) 20時から医療センターにて「薬剤関連顎骨壊死の現在」と題して国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長の中島健先生が講演されます。また熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会の摂食嚥下特別講演会は1月25日(金) 19時より「誤嚥を頸部聴診法で予測しよう」と題しまして、小笠原訪問看護ステーション言語聴覚士の大野木宏彰先生の講演があります。セミナーは今年は終了しましたが、来年も引く続き行う予定です。これからはもっと医師・歯科医師の積極的な参加を期待しているそうです。2019年度の医歯連携セミナーは6月13日(木)と8月22日(木)と2020年2月20日(木)に20時より開催する予定です。内容がまだ未定なので、後日決定次第、報告いたします。救急蘇生法講座も例年通り開催予定です。



24時間受け入れ体制を充実させます

4. 開放型病院連絡会について

平成30年度第2回開放型連絡会が平成31年2月23日(土) 18時30分より熊本医療センター2階地域医療研修センターホールにて開催する予定です。今回は総会と特別講演があります。講演は、厚生労働省医政局医療経営支援課長 樋口浩久先生が行う予定です。演題は、まだ未定です。その他、症例提示も2つの診療科から2例あります。

5. その他

12月1日に国立病院の電子カルテを更新したそうです。今のところ、目立ったトラブルはないとのことでした。また、熊病ニュースを会員に送付することで、12月だけで15人の先生が連携登録医にしてくれたそうです。中島先生から感謝の言葉をいただきました。そのほか、パーキンソン病の治療法や在宅医師の問題等の話で盛り上がりました。最後に、これからも国立病院機構熊本医療センターと熊本市歯科医師会の連携を深めていくことを確認して閉会となりました。

(医療管理 高橋 禎)

地震後初開催

熊本市民健康フェスティバル



会場となった熊本市総合体育館

平成元年から始まった熊本市民健康フェスティバルは、熊本地震後一時中断していましたが、10月21日(日)、熊本市総合体育館で3年ぶり28回目の開催を迎えました。



76名が歯科相談

9時30分より正面玄関ホールでオープニングセレモニーが行われ、久しぶりの開催に会場前に来場された市民の皆さんが続々と入場されました。

歯科医師会は地域学校歯科保健委員会から8名出務し、歯科相談と口臭測定を担当しました。

来場者は高齢者が多く、歯周病に対する相談

を多く受けました。中でも『歯石を取ると歯間が広がるので除石は受けたくない』という相談が多く、臨床の現場では処置の必要性和患者さんの感覚との乖離を埋める必要性があると感じました。

多数来場され、席が空く間も無いほどでした。それぞれのコーナー来場者は以下の通りです。
口臭測定……272名(男性76名、女性196名)
歯科相談……76名(男性16名、女性60名)



口臭測定は272名訪れる

(地域学校歯科保健 後藤俊秀)

緊急時には迅速正確に対応を

救急蘇生法講習会



3名の先生による講演があった

平成30年11月8日(木) 19時30分～21時30分、国立病院機構熊本医療センター2階の地域医療研修センターにおいて救急蘇生法講習会が開催された。今回は、3名の先生による講演の後、実技が行われた。



7つのグループに分かれ実習

最初に、麻酔科の瀧賢一郎先生により「救急蘇生と周辺知識～意識障害を中心に～」という演題で講演が行われた。意識がない人・おかしい人を発見した人はまず助けを呼びますが、もしそこに皆さんが呼ばれたらどうしますか？ということで講演がすすめられた。そこで今回の

講演のポイントは、呼ばれた人は意識の二次評価者になろう！である。二次評価者は、いきなり呼びかけず10秒間観察してほしいとの事であった。

最初に、①顔の表情が弛緩しているか？、②手足のびくつきやけいれんは？、③体の硬直や異常な肢位は？、などを冷静に観察する。次に呼びかけ(脳聴覚刺激)反応と同時に肩をたたくなどの刺激(体性感覚刺激)反応をみて、できれば呼吸も確認し意識障害を冷静に判断してほしいとの事であった。次に見当識障害についての説明があった。見当識とは、「自分のおかれている環境を正しく認識できる能力」の事で、時・場所・人の3つに分類される。例としては、「今何月ですか」「ここはどこか解りますか」「一緒に来たこの方とはどういう関係ですか」などで、これらの質問のうち1つでも異常なら、見当識障害ありと判断する。

次に、歯科口腔外科の中尾美文先生により「てんかん患者の歯科治療」についての講演が行われた。てんかんとは、「慢性の脳の病気であり、大脳の神経細胞が過剰に興奮するために、不随意的な筋肉収縮のほか、意識消失などの症状

が反復性(2回以上)に起こるもの」と定義されており、100人に1人存在する有病率の高い疾患である。また幼児から高齢者まであらゆる年齢に分布しており、発症の原因も様々である。そして、てんかんの診断・治療の説明等の解説の後、症例の提示が行われた。歯科治療に関しては、抗てんかん薬でコントロールされていれば、すべての歯科治療が外来でも可能であるが、事前の医療面接が重要であり、十分な情報収集が必要であるとの事であった。歯科治療時の注意事項としては、①過度の緊張を避け場所に慣れさせる ②光で発作を起こすことがあるため、目にタオルをかけるなど工夫をする ③局所麻酔やタービンなど刺激のある処置前には丁寧な説明を行う ④確実な除痛を行う ⑤付き添いの家族には同席してもらい、発作時には対応の指示・協力を依頼する、などである。発作が起ったら、5分程度は慌てずに観察し、またBLSが必要になる場合があるため何時でも対応できるようにしておくことが重要である。しかし、5分経過しても発作がおさまらない場合、発作が頻発し不規則な呼吸状態が続く場合、付き添いの家族が対応できない場合などでは、救急要請は必要であるとの事であった。



専用の人形を用いて実技

続いて、歯科麻酔の吉田先生により救急蘇生法(JRC蘇生ガイドライン 2015)についての講演が行われた。

まず歯科治療に関連した心停止として、急性心不全・気道異物・デンタルショック・アナフィラキシーショック・局所麻酔中毒などを挙げられ、それぞれの症状や対処法について説明があった。次にBLSについての解説が行われた。心停止かどうかの判断に自信が持てない場合でも、心停止でなかった場合を恐れずに、直ちに胸骨圧迫とAEDの使用を開始する事が重要との事であった。また、胸骨圧迫では、①胸が約5cm沈むように圧迫する。②1分間に100～120回のテンポで圧迫する。③人工呼吸時など、胸骨圧迫を中断する時間は最小限にし、10秒を超えないようにする。さらに、人工呼吸は、訓練を受けており技術と意志がある場合は、胸骨圧迫と人工呼吸を30：2の割合で行う。最後に、救命率を上げるには、質の高いCPRと迅速な除細動が必要である。BLSは、生命の危機的状況に陥った傷病者を救命し社会復帰に導くと話され講演は終了した。

講演後は、7つのグループに分かれて、2人一組で麻酔科および歯科口腔外科の先生の指導の下、専用の人形を用いた実技を体験し、理論だけではなく実際に救命処置を体験し、いざというときに何をすべきかを実践的に学んだ。日々診療中に何が起こるかわからないため、院長だけではなくスタッフも含めて救急救命の研修を受けることは必要である。また、日常で倒れている人や事故、災害時に家族を助ける可能性もあり、緊急時に迅速に正確に対応することは、医療従事者として重要である。

(医療管理 片山晃紀)

初めての熊大附属小での巡回指導

平成30年度 歯磨き巡回指導(後期)報告



よく噛んで食べてね

平成30年度歯磨き巡回指導(平成最後)は、今年10校中の後期分、予定通り11月2日(金)北区の楠小学校から始まり、11月20日(火)東区の桜木東小学校まで5校行ないました。

今回、初めて熊本大学教育学部附属小学校で歯磨き巡回指導をおこないました。

今まで、一度も歯磨き巡回指導を行っていませんでした。

附属小学校の児童は、ほとんどカリエスがなく、歯科矯正治療を行っている子が多いと、学校歯科医の宮本会長からお聞きしています。

このことから、進学に対する熱心さと保護者の理解、経済的なことが関与していると思います。

今回、ご協力くださいました学校歯科医の先生、並びにご同伴の衛生士さん方、スタッフの方、熊本県衛生士会熊本支部の皆様方ありがとうございました。



バイキンマンをやっつける



寸劇も披露



さあーきれいに磨こう

(地域学校歯科保健 井手裕二)

歯磨きを通して健康な大人へのお手伝い

歯磨き巡回指導



むし歯の好発部位をよく説明

11月7日(水) 10時50分～11時35分熊本大学教育学部附属小学校の歯磨き巡回指導に出務しました。

同行者は歯科衛生士会9名、校医の宮本、委員の坂元彦太郎先生で、今回3年生3クラスに分かれて歯磨き指導を行いました。

衛生士会の方々が、わかりやすい手順書やパネルを使い、とてもスムーズな導入でしたので、子どもたちも真剣に聞き入っていました。

その後、染め出しを行い、鏡を見ながら、皆で歯磨きを行いました。

子どもたちからは、「この場所がどうしても赤いのがとれません」と積極的に質問もあり、アツと言う間の1時間でした。

自分で健康を守る手段として、歯磨きはとても身近でわかりやすい行為だと思います。今後も歯磨きを通して、健康な大人に成長できるお手伝いのできたらいいと思います。



歯と歯茎の間に気を付けて



質問があります



このようにブラシを当てて

(校医 宮本格尚)

平成31年

熊本市歯科医師会



熊本市長のご挨拶



小島県歯副会長のご挨拶



江藤市議会議員による乾杯



すごい新入会員がいます



ウェルカムです



銘酒は即消滅



やったね、ピース



夫婦でご参加

平成31年熊本市歯科医師会新年懇親パーティー開催が1月19日19時30分(開場19時)より190名を越える会員、御来賓を迎え平成最後の新年会はホテル日航6階「阿蘇」にて開宴しました。

(医師会の九州8市会議と日程が重なったので開場・開宴が通常よりずれ込みました。)

恒例となったショルダービアサーバーによるウェルカムドリンクが高松専務勅選カブリモノを装着したノリノリの執行部によりサーブ。ワンダーフォーゲルで鍛えた宮本会長の技は冴えまくり、ビールのクリーミィな泡の美味さは参加者からの絶賛を浴びていました。生ビールにより緊張がほぐれた後は会長挨拶に続き、再選を決めた大西一史熊本市長から市医師会長・園田 寛先生、県議会議員・藤川隆夫先生、県歯副会長(県歯会長代理)・小島博文先生にご挨拶をいただきました。その後、熊本市議会・江藤正行議員の乾杯により楽しく開宴。

昨年度から始まった日本酒飲み比べコーナーを設置しましたが如何だったでしょうか?新年を寿ぐにふさわしい「しぼりたて」、「生原酒」をkey wordsに猪本酒店にチョイスを依頼したラインナップは美味さに定評の5銘柄を準備しました。

1. 田酒 純米大吟醸 四割五分
2. 新政 純米しぼりたて 生原酒



親子、夫婦でご参加

新年懇親パーティー



新入会員の挨拶



永年功勞者表彰



良い一年でありますように

3. くどき上手 純米大吟醸 しぼりたて
4. 酔鯨 吟麗 しぼりたて
5. 産山村 純米吟醸 無濾過生原酒



さらに今年はシークレット日本酒として「えぞの誉」を提供。「えぞの誉」は活性酒(かっせいしゅ)で炭酸ガスを含んだ口に含むとシュワシュワとして爽やかな飲み口で有名な日本酒です。濁り酒、どぶろくの一つですが日本酒の原型とも言われ飲みやすさが特徴の北海道の逸品「えぞの誉」、日本酒文化の魅力を再発見していただけたなら幸甚です。



ホテルカレーが大人気

昨年度も大好評のカレーに今年は茶そばをコーナー料理としてサーブ致しました。スリランカ風スープカレーは一杯¥1,000！の期待を裏切らない美味しさですが、宴会続きの会員にはあっさりとした茶そばも好評でした。スイーツ・コーヒーはコーナーを設置することで甘党の方はおかわり自由にしました。

最後は市薬剤師会長 丸目新一先生に万歳三唱の御発声をいただき終宴となりました。(来年は通常通り18:30開場、19:00開宴に戻る予定です。)

(厚生 嶋田 英敏)



事務局の皆様へ感謝



妙に似合ってます



ゲットだぜ



皆いい笑顔です



丸目薬剤師会長による万歳三唱

不定愁訴を伴う顎関節症患者の治療報告

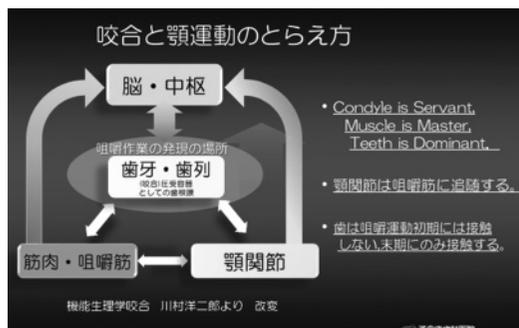
そのき歯科医院 園木 誠

緒言

咬合の安定には顎関節・歯牙(歯列)・咀嚼筋のバランスが重要であり、このバランスの中でスムーズな咀嚼運動が行われ、(個々の生体による違いはあれ)そのバランスがある閾値を越えると不調和という形でさまざまな症状が表面化する。

『Condyle is Servant, Muscle is Master, Teeth is Dominant』この言葉は、咬合のそれぞれの要素がどのような関係にあるかを端的に述べた言葉で、顎関節は咀嚼筋に追随し、さらに歯牙(歯列)はその歯根膜圧受容器の感覚により咀嚼筋群を支配しており、咬合の安定に関して最も支配的な要素といえる。

今回、不定愁訴を伴うTMD患者の歯科治療を行い症状の改善が得られた症例を報告する。



〔症例の概要〕初診：2010年3月

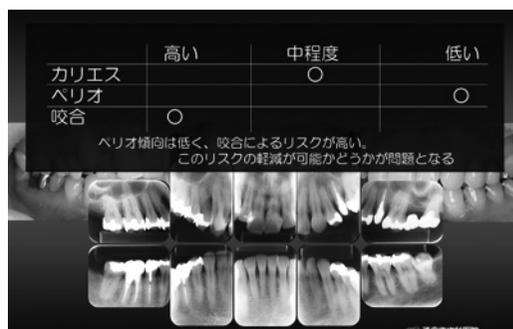
主訴：噛み合わせ診断／カリエス治療、30歳女性、看護師、特記事項：片頭痛あり、Angle class II、OJ/OB：5/2mm

左側はクレピタス音・クリック音は認められず、右側相反性クリックをかるうじて認めた。最大開口域31mm (#21-#31間)咀嚼筋圧痛あり
左側：顎関節症IV型、咀嚼筋障害(I型)。
右側：関節円板障害(Ⅲ型)、咀嚼筋障害(I型)。



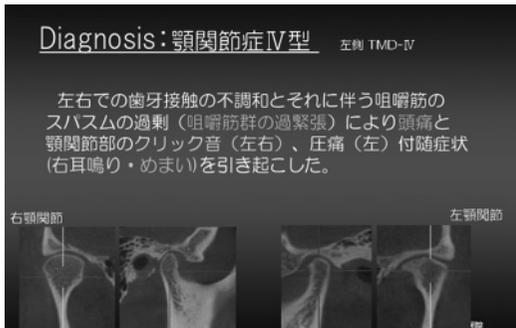
〔患者のこれまでのヒストリー〕

20歳代前半から片頭痛をもっていた。25歳：地元の総合病院耳鼻科で咽頭扁桃摘出術を受けた際、右側に耳鳴りがあることを先生に相談し、MRIを撮影したが読影所見は「何も問題ない」と言われた。目眩もあったため対症療法としてメリスロンなど3種類・約6ヶ月間を服用したが効果を感じなかった。27歳：内科医療機関で局在不明で頭を締め付けたような痛みがあり片頭痛と診断された。投薬はイミグラン・約6ヶ月間を処方されたが効果はなかった。以降：鎮痛薬(市販または処方)を最近まで服用続けていた。28歳：カリエス治療のために他の歯科クリニックへ行った際、噛み合わせが悪いと診断された。



〔治療内容〕ペリオチャートや口腔内の充填物や補綴物、レントゲン画像診断などからペリオ傾向は低く、咬合によるリスクが高いと判断。ま

た、顎関節症を引き起こしている咬合のリスクの軽減が可能かどうか問題となると考えた。



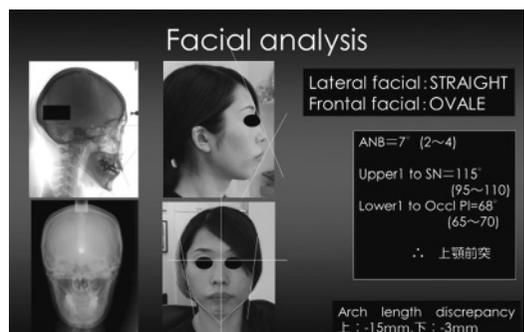
当然、この患者の下顎位は正常のものではなく、TMJの明らかな機能的・器質的变化を起こした状態のものであるため、治療咬合として、歯根膜の求心性ニューロンからのアウトプットした顎位の影響を極力避ける目的でスプリントを応用しつつ下顎位を模索しなければならないと考えた。そのため、よりの確に事前のTMJの状態を把握するため顎関節周囲のコーンビームCTを撮影した(MRIによる関節円盤の位置：状態を診断することが適切と考えられています)。CTでの診断の結果、右顎関節の後方へのコンプレッションと左顎関節のバードピック状の変形を認めた。ICPでは臼歯のみ咬合接触し、前方・側方運動時はそのまま臼歯部がすべるような咬合運動様式であった。さらに咀嚼筋の圧痛部位の審査を行った。



スプリントに関しては、日本補綴学会顎関節症ガイドライン『最終治療目標は最大開口域40mm以上で、疼痛と日常生活支障は「なし」とする。また、最大開口域35mm以上で、疼痛と日常生活支障は「軽度」であれば経過観察とする。

スタビライゼーションスプリントとは均等な咬合接触を付与することで下顎の安静を得ることを目的として、上下顎歯列のいずれかの咬合面全体を被覆する全歯列型スプリントである。異常(症状を現す)咬合からの解放を促進し、咀嚼筋の安定を得る。そして下顎頭と下顎窩との関係を修正する。また、顎関節部への負荷を軽減する。小児には注意して使用』を参考にした。

スプリントを約3ヶ月使用して、咀嚼筋群の圧痛と片頭痛の緩解を得たため、矯正治療を開始し、その間のスプリントの使用はできなかった



め、シリコンマウスピースを適宜装着していただき、Tooth contacting habitsなどの不良習癖の説明や自己暗示などを行った。

理想とされる咬合様式は全歯牙が閉口時接触し咬合圧を分散、前方・側方運動時はそれぞれ前方歯群・側方歯群がガイドを行い臼歯が離開できるような運動とされるため、矯正治療によってそれらが得られるかをセットアップモデルにて確認し治療計画を立てた。

[治療経過]前歯部・犬歯の接触が観察できるこ



ろになると、かなりの症状軽減が観察できるようになった。

以前は歯科医院で口をあける(非日常の開口



域)と左顎関節部が痛く、また大きなクリック音がつらかったことを覚えている。

右側耳鳴りは静かなところ(就寝時・車の運転を終えエンジンを切った時など)では高音も低音層もひどく痛いくらいに聞こえていたが今はしない。

〔結果〕



半年の経過観察を行ってブラケットを除去した。矯正治療の結果、前方歯群・側方歯群の役割を得ることができるようになって、完全ではないにせよ症状が消失し、現在は定期的に来院され症状の再発観察されていない(強くかかみ締めたり、くしゃみをしたとき痛みを感じることもあるとのこと)。最大開口域35mm(#21-#31間)

治療開始直前(2010年)のCTと症状の消失した時点(2011年)との比較を術後経過として示す。今回の症例において、術前は左右側とも関節頭が関節窩後部結合組織へコンプレッションを起こし、さらに関節腔の減少が観察され関節腔のクリアランスはかなり低下していたが、術後は関節窩の中で後方へ移動していた関節頭がクリアランスの増加を伴い前方へ位置したもの

と思われる。

〔考察〕



顎位を Centric Relation(CR)に求めることは明白な補綴治療のスタートである。言い換えれば、「顎関節頭はCR時、関節窩の中で上関節腔・関節円板・下関節腔を介して最前方位かつ最上方位の位置にある」ということが必要条件と考える。しかし、現実にはそれと程遠い骨格的な要素が付随した咬合関係である場合や、患者の自覚がない場合、あるいは歯牙の切削を伴う歯科治療という不可逆的侵襲を避けるためにあえて行わないことがある。

幸い患者が術者の治療計画を受け入れたとしても、そのCRはピンポイントで正しい位置であるのか? TMJに異常がある場合、そのよりどころ(CR)をどうしたら見いだせるのか?という疑問は常に臨床医が抱えるものであると思う。今回の症例は顎位の審査・診断と予後の評価の指標にCTを用いることでより客観性をもつことができ、TMD治療への貢献ができたものとする。

参考文献

- ・機能生理学咬合 川村洋二郎著
- ・審美修復治療 山崎長郎著 クインテッセンス出版
- ・臨床機能咬合顎 小出馨／編 補綴臨床別冊 医歯薬出版2009
- ・チェアサイドで行う顎機能審査のための基本機能解剖 井出吉信・小出馨／編 補綴臨床別冊 医歯薬出版 2004

先代の先生方に聞く 歯科医師会の歴史—座談会報告

100周年準備委員会中間報告



前列左より堀川先生・永田先生・中根先生

平成29年11月19日(日) 12時～14時40分 中央区草葉町の日本料理店『日本料理 新 世菜』にて、座談会を行った。

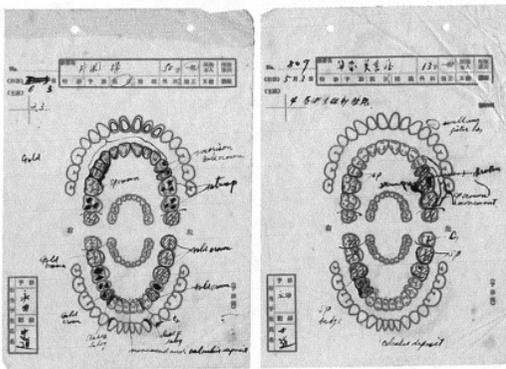
堀川義治(S3)、永田博久(S7)、中根俊吾(S8)各先生にご出席いただき、委員会からは、田中委員長、蔵田、温、古川各委員が出席した。

お聞きした内容は、下記の通りで、そのどれもが興味深く、また懐かしい話でもありつい時間が過ぎるのを忘れて聞き入ってしまう程でした。

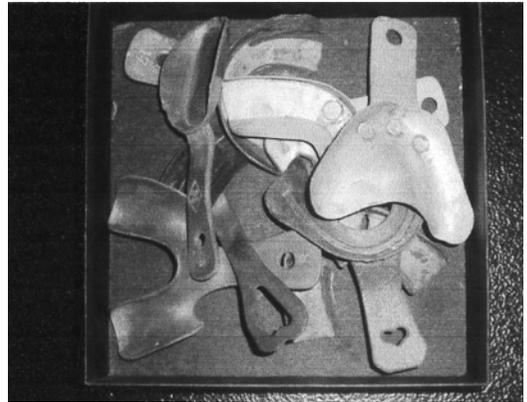
今回は、その一部の紹介で、後日熊本市歯科医師会HPの中に全文掲載し、また12年後に発行が迫った熊本市歯科医師会百周年記念誌の中にも掲載します。

- 皆保険制度の前は質屋通いも—
- 保険医総辞退の頃—
- 朝から夜までフル回転—
- 予約診療、水平診療へ—
- エアータービン—
- 歯科医師会の話—
- 保険以前の頃—

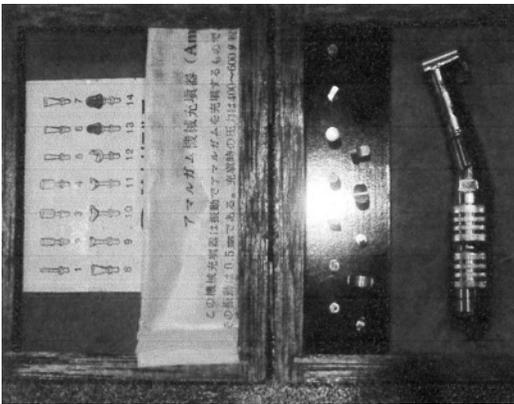
- 国家試験の窩洞形成は電気エンジンで—
- ゴム床義歯、圧力釜—
- 栃原義人先生とむし歯予防—
- 患者さんの口腔衛生状態—
- UCLAで口腔ケアの研修受講—
- 日本の歯科の黎明—
- 血脇守之助と野口英世—
- 終戦前後の情勢—
- 熊本空襲—
- 不発の焼夷弾を焚き物に—
- 南京虫、DDT散布—
- 帽子と靴と雑嚢の配給—
- そのころは手作りのテキストもあった—
- 様々な恩師の話—
- 九地連開催記念のたばこ—
- 歯科医師会の部活—
- 川上哲治のこと—
- いろいろな厚生事業—
- 当時の繁華街は—
- 長生きの秘訣—
- 趣味人が多かった—



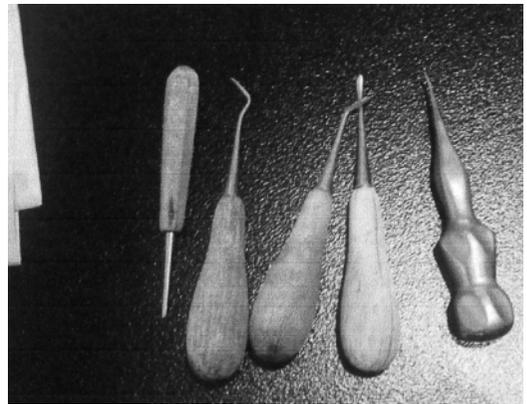
永田先生所有の資料



永田先生持参の印象トレー



アマルガム充填のアマルパック



納富先生の研修で使った木製の柄のエレベーター

(百周年委員会 温 永智)



九地連開催記念のたばこ

高雄市歯科医師会との交流を益々発展させる

高雄市歯科医師会、再熊本訪問



総勢26名で記念撮影

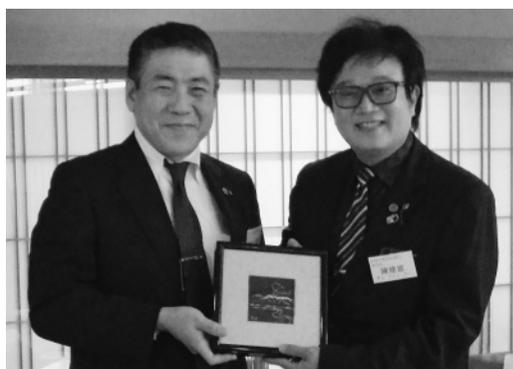
平成30年11月25日(日)、高雄市歯科医師会一行12名が二度目の熊本市歯科医師会への表敬訪問に訪れた。これは平成28年3月26日以来の二度目で、その後熊本地震の為、交流が途絶えていたが、平成31年1月6日、熊本市歯科医師会が高雄に訪問し、更なる交流の為、再来熊された。

19時よりホテル日航において懇親会を行い、渡辺猛士副会長の司会のもと、宮本格尚会長と陳建富理事長が通訳を介して挨拶を行い、恒例の記念品交換を行った。



宮本会長による歓迎の辞

熊本市歯科医師会からは肥後象眼の盾、高雄市歯科医師会からは、台湾では有名で歯科医師でもある書家による掛け軸を頂いた。



熊市歯会より肥後象眼の盾をプレゼント

将来、価値が出ると紹介されましたが、書かれた文字の意味は字のごとく「皆の気を集めて国を支える」という意味で、地震の復興に台湾の人たちも熊本を応援しているというありがたい掛け軸でした。



素晴らしい書を頂く

しかも、この文字は上二つが右手で書いたもので、下二つは左手で書いたものだそうです。

この後、乾杯した後、各々通訳を介してお話しし、何人かは日本語が少し解る先生方もいて楽しく会食を楽しみました。



和やかに乾杯



皆、満面の笑みです

台湾の方は、基本的に生ものは苦手です。食事は全て火を通すのが本来なので、日本料理を出すのが心配でしたが、そのことを質問したところ、大丈夫だと言われ、全員問題なく食されていて心配は無用でした。

今回来日された先生方は、もう3～4回あったことのある先生方なので、もはや再会が楽しいという感覚で歓迎会を行いました。



田中副会長（右）による締め

1月に行った時は大歓迎を受けたので、今回来られた先生方には熊本市歯科医師会役員各自で、手土産も含めて費用を分担して接待を行いました。少しはお返しができたかなと思います。

楽しい宴は、あっという間に時間が来て、最後は田中弥興副会長の締めで閉会となりました。

（理事 温 永智）

第50回『かめる会』展開催さる!!



一緒に趣味の話をしていきませんか

平成30年9月25日(火)～30日(日)にかけて、第50回かめる会展を手取本町有明ビル3F 画廊喫茶「三点鐘」にて開催しました。出展者は、緒方進、千場正昭、増田憲元、橘俊光、鈴木憲久、伊藤道子、緒方優一、(敬称略)と私こと田中弥興の8名で、その他に名誉会員として鈴木勝志先生、故緒方益夫先生、故前田辰蔵先生、故宇治壽康先生の作品も展示して盛況のうちに終了することができました。50回という大きな節目を恙無く終わることができたのは、先輩方の芸術に対する情熱によりこの会を続けられた結果だと思えます。また、三点鐘の前店主；小山淡花子氏のご協力があったればこそと感謝申し上

げます。

次年度からは、元号も変わり時代の節目となりますので新たな気持ちで開催をしていきたいと思えます。

この会の特徴は、絵画だけでなく、写真や書など多岐にわたる発表の場としていきたいと考えています。他にもいろんな趣味の活動をされている方が多数いらっしゃると思えますので、発表の場として利用していただき、一緒に趣味の話をしていきませんか。

皆様のお出でをお待ちしております。

(田中弥興)

『かめる会』50周年を振り返って

2018年(平成30年)で“かめる会”は50周年を迎えました。

初代会長；緒方益夫先生、二代目；宇治壽康先生、三代目；鈴木勝志先生、四代目；緒方進、そして現会長；田中弥興先生を中心に活動しております。

だんだん時代の流れでしょうか、会員も少なくなりましたが、隠れた文化的趣味を持った絵画だけでなく、いろいろな分野で活躍されているデンタルファミリーの方々に参加頂きたいと思います。



田中弥興先生を中心に活動

今回の作品を見ると、橘俊光先生の花シリーズ。プロ級の腕前で彩やかな色取りのバランスのある独創的な作品です。鈴木勝志先生の油絵は、何十年も親しんでおられるベテランでシンプルな透明感あふれる構成は抜群です。緒方優一先生は、海と砂浜と空がメルヘン的で爽やかな感銘を受けます。緒方進は、自己流で専門の先生の手が入れられない緒方流の絵とすぐ分かります。千場正昭先生の写真は、オーソドックスで視点、感覚の良い時間をかけた感性豊かな作品です。増田憲元先生の写真は、先生の人柄が胸にジーンときます。本当に写真が好きな先生です。伊藤道子先生は、初出品でガッチリしたデッサンで生き生きとした表現力のある作品です。鈴木憲久先生のユニークな風景と人という

かフィギアとの融和した人を引き付ける構成で不思議な作品です。故緒方益夫先生、故前田辰蔵先生、故宇治壽康先生の作品は、熊本市歯科医師会会誌『中岳』と共にたどります。



写真の作品

1969年(昭和44年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)1号によると、緒方益夫先生(当時、熊本市歯科医師会会長)を中心に絵の好きな先生方で“かめる会”を作られました。その時、かめる会とは、義歯を入れて「噛めるかい」「嚙めるかい」、我々の画もかめるかい?という意味で決定されました。



名誉会員の作品

まず、伝説の人・緒方益夫先生は、本誌で川尻町の片岡幸先生が、「彼の顔、容姿は部分的に洗練され、一部のスキもないスタイリストである。勿論、美男子とか、好男子とかとはおよ

そ縁遠いが、キャバレーで実にゆるやかに静かに踊る姿はにくい男としてひきつける。彼は舟であり海であり、船や海が彼であった。自己表現に目を見張るものがあった。」と記されていた。小生・緒方進は1969年5月、父と友人ということで緒方益夫先生の診療所に勤務しました。西郷隆盛のような懐の深い先生でした。

1970年(昭和45年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)5号では、「かめる会、根子岳スケッチ紀行」で岩村泰行先生が投稿され、渡辺安人先生以下緒方益夫先生、宇治壽康先生、木村義浩先生など11名参加され開催された。絵とは何か；物をかく、物とは；物体とは点と線からなっている、色は光である、物そのものをかくこともあろう、物と物の集合体である、静物や風景もあろう、俳画あり…(略)上手下手は別問題…(略)人は絵を描くことを知っている。と記されている。また、岩村先生は奥田さんと俳句もされており、スケッチ旅行の風景を呼んだ一句紹介します。

「色を付ける 田面の彼方

根子をかく」

1971年(昭和46年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)8号「第3回のかめる会」は、「保険医総辞退の騒然たる世の寸暇をさいてここまで仕上げられるものだと驚きよりも敬意を表したい気持である。」画廊喫茶・セルパン 正木忠男氏(熊本県文化協会常任理事)による評価を頂いた。

正木氏による各会員の評を記する。

奥田 実先生 「あじさい」；作品の良さはその素直にある。真実を求める気持ちがよく受け止められる。

緒方益夫先生 「川沿のテラスについて」；今のリーダーとしての技術、色彩とともにデリケートな神経が感じられる。

前田辰蔵先生 「静物」；マチュールに細かい注意が払われている。その熱意と努力を特にかいたい。

川寄 正先生 「みち」；表現力は見上げたものである。色彩の効果、構成の妙。とくに配色の美は抜群である。

宇治壽康先生 「風景A・B」；これまでどちらかと言えば、技術的に仕上げられていたが、今回は造形の確かさとリアリティが加わったことも意味する。ともに描写力は非凡である。

その他、木村義浩先生、岩村泰行先生、伊藤俊一先生、大関英明先生、杉野洋二郎先生の作品評が続く。

1972年(昭和47年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)10号「緒方芸術のエスプリ」では、緒方益夫先生第11回個展に寄せて、正木氏に投稿を頂く。「驚くなかれ、緒方益夫先生の十余年はあっという間に過ぎ去ったように私には思われる。先生独自のドラマは、淡々とした調子で素朴にみる人の心に語りかけてくるものである。市歯科医師会会長というような重い肩書や役職は、どこか遠くに飛んでいく一個のユニークな人間の姿だけが画面での重要な役割をはたしているものである。」と。

1977年(昭和52年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)23号「第8回かめる会をみて」において正木氏がグループとしてかめる会を見て、「アマチュア絵画コンクールで金賞を受けられたこともある会員のいるこの会が形式とか趣向にとらわれることなく率直に各自が意志と感情を表現している。各自のキャラクターははっきり感じられ頼もしい。」と批評していただいている。岩村泰行先生 「メナムの流れ」；気持ちのいい作品である。調子も色調にも無理がなく淡々とした表現がいい。

奥田 実先生 「葉牡丹」；作者の心が伝わってくる作品である。面白さもあるが、唯、情熱が単にちりばめられるだけでなく、色彩のコントラストがあればもっと印象的な作品になるだろう。

宇治壽康先生 「1827年」；いつものことながら、対象を見つめた繊細にして神経の行き届いた作品である。

木村義浩先生 「鞍岳」；素直に対象を見つめた作品である。色彩の研究をもう一歩進められたらもっと良くなるだろう。

緒方益夫先生 「山村風景」；さすがにベテラン

らしく詩精神を絵画のもつ造形性が程よく調合されている。

鈴木勝志先生「河内風景」；構図、配色共に成功している。情景もよく出ている。色彩がもう少し消化されているともっと良くなるだろう。澤田宜彦先生「ばら」；絵具のつき、構成も色彩も無理なくほどよくできている作品。

緒方 進先生「やしの実」；絵具のつきや調子は抜群である。単調なモチーフが魅力的である。伊藤俊一先生「白い花」；可憐な花の心がよく出ていると思う。

川寄 正先生「ひまわり」；素直さのために作品が澄んでいる。この気持ちのままに内面的なものを考えて行ったらいい。

斎藤 健先生「橋」；透明水彩の質をよく生かして技術的にもある程度整理されていて空気をよく伝えている。

大関英明先生「象」；さすがに造形意識がはっきりしている。発想も構成も空間処理もなるほど練れている。

以上、評価されました。

1977年(昭和57年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)24号“本日休診・「シスコ」で個展”において、市歯科医師会会長で、銀光会会員である緒方益夫先生を画廊喫茶「セルパン」にて当時広報委員だった緒方進が取材した。

S；先生がサンフランシスコで個展を開かれた動機は……

M；現在シスコで「ギャラリー・ポエージ」という画廊を経営している友人の吉井義経氏(玉名出身)の日本と言わず、世界各国から集まってくるアーティストの作品を連続的に開催しようという意欲的な心に打たれ、第1回個展を是非シスコで……との招きによるものです。

— 後略

1980年(昭和55年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)34号では、「第12回かめる会展を見て思うこと」という題で正木氏より投稿を頂いた。

かめる会は、この名前もだいたい市民の間では親しまれたような気がする。それは、12回というキャリアの重さだけでなく出品者各位の創造



出展者は8名

への情熱とその姿勢が観る人に気持ちよい印象を与えているのではないかと思う。なぜに描くか、如何に描くかという問題意識があり、よく聞く言葉であるが上手な作品と良い作品とは、その意味が違うということである。作者の人間性と感情的表現が観る人に強く伝わってくる作品、こんな作品はとにかく良い作品に違いないのである。

田島宗穂先生「献花」；感情豊かな資質に恵まれた人である。このめぐまれた資質が色彩にもマチエルにもよい影響を与えている。

鈴木勝志先生「金峰山」；相当長く描いてこられたので、とにかく絵具がよく馴れていてよくついている。構成にも難がなく色彩感覚にも優れ、画面の調和がとれている。

渡辺安人先生「風景」；鋭く深く然も子細に切り込んでいったことが成功につながっているようだ。技の至らざる点をも超越して作品にリアリティを感じる。

上三垣晋甫先生「花B」；自分の意思を率直に表現している。自然が与える天然の美を素直に受け止めながら、語りかけるような作者の心情は貴重なものである。

杉野陽二郎先生「風景」；無理のない悠々とした作品である。虚心に心の窓を開いて美の大切な要素を秘めている作品である。

緒方益夫先生、岩村泰行先生、大関英昭先生、緒方進と作品評は続く。

1982年(昭和57年)中岳(熊本市歯科医師会会誌)41号では杉野陽二郎先生により、9月20日より25日まで東京・銀座の十字屋ギャラリーで



画廊喫茶「三点鐘」

開かれた全日本歯科医師美術連盟第1回展に出品する為、全員意欲を燃やし、力作が出来上がった。旨の投稿がありました。

当時の会員の方々ー

熊本市；岩村泰行、宇治壽康、大関英明、
緒方 進、奥田 実、木村義浩、
杉野陽二郎

鈴木勝志、添島義和、田島宗穂

郡 部；上三垣晋甫(八代) 伊藤俊一(水俣)
澤田宜彦(八代) 渡辺安人(菊池)

過去の作品を出品した会員；川寄 正
渡辺益雄 斉藤 健

故人会員；緒方益夫 前田辰蔵

(敬称略)

以上、中岳で『かめる会』昭和を振り返って
みました。

(緒方 進)

心を震わすシネマワールド

『ぼくのエリ200歳の少女』

監督 トーマス・アルフレッドソン

原作 ヨン・アイウィデ・リンドクウイスト

原題 モールス

2010年7月 日本公開

闇の世界に於いては絶対にして最強、無慈悲にして不老、そんな吸血鬼の少女の物語である。しかしそんな吸血鬼にも、太陽光線に当たると死んでしまい、鏡には映らず、また許可を得ないと家の中には入れないという約束事があります。そして何よりも弱点となる太陽光線を避けて眠っている昼間、自分を守ってくれる人間の眷属(従者・家来)がどうしても必要になります。その眷属は主人の吸血鬼から絶対的な保護を受ける代わりに、時には主人の代わりに、殺人を犯して人間の血液を手に入れることもやむなしという関係を築きます。

しかし、悲しいかな人間の眷属は歳をとり主人の吸血鬼の少女は不老で、そのため同じ場所で殺人が続き、歳も取らないとなると怪しまれるため同じ場所には長く住めないことになります。

物語は、眷属が歳をとり老人になり働きも鈍くなり、困った吸血鬼の少女が故意か偶然か学校でいじめられている少年に夜の公園で出会い、悩みを聞いて励まし、アドバイスをして力付けることから始まります。少年の家庭は決して恵まれてなくネグレクト気味で、そんな少年にとって吸血鬼の少女のアドバイスは、やがて少年の心を掴んでいきます。

アドバイスに従って、少年は勇気を振り絞っていじめっ子に反撃し、これでいじめは解決したかと思ったら逆に親や周りから怒られ、何よりも最悪なのはいじめっ子の兄が仕返しに来たことだった。命に係わるほどの仕返しのシーンが夜のプールの惨劇のシーンで、助けに来た少女による行為は直接のシーンこそなかったが水面上で起こった惨劇を水中の少年の視点で想像すると、それだけで身の毛がよだつという見事なカメラワークになっています。

そして、新たな眷属を得た吸血鬼の少女は、中にはいって移動するカバンの内と外で親を捨てた少年とモールス信号で会話しながら、この少年が歳をとるまで逃避行を続けることとなります。この少女の過去と未来が明確に想像できるという余韻を残して映画は終わります。

この映画は、数多くの賞を取り、即ハリウッドで「モールス」という原題でリメイクされました。ただこの映画には一つ秘密があり、これは日本で公開する時、映倫に引っかかったのか、それとも故意か、その秘密を知った時、視聴者はまた違った感慨を受けることになります。

(温 永智)

支部だより

楽しい活気のある支部を旨す 平成30年度熊本市歯科医師会北区第1・第2支部合同忘年会

平成30年12月20日(木) 19:30～「瑞恵(みずえ)」中央区安政町2-26-1にて表記支部会が開催された。昨年に引き続き、北区第1・第2支部合同の開催となったが、合同の方が人数的にも丁度よく活気が出ること、支部割再編により離れ離れになってしまった会員同士の親睦が図れること等の理由によるもので、今回も好評だった。

当日はあいにくの雨のため交通渋滞により少し遅れる先生もいたが、中嶋 隆志先生の絶妙な司会の下、ほぼ定刻通り開会された。

まず、北区第1支部の田ノ上 輝支部長の挨拶があり、続いて北区第2支部の谷口 守昭支部長の挨拶があった。

本年は、北区第1・第2支部で9名の先生方が古稀、還暦、厄入りをお迎えになられたが、そのうち、北区第1支部の牧 正仁先生(古稀)、北区第2支部の菊川 明彦先生(還暦)、北区第1支部の勇 雅大先生(後厄)、境 大助先生(前厄)の4名の先生方のご参列があった。北区第1支部の牧先生、勇先生、境先生には田ノ上支部長から、北区第2支部の菊川先生には谷口支部長から、支部からのささやかな記念品が贈呈され、それぞれの先生方の御健勝を参加者全員で祈願した。その後、それぞれの先生方のご挨拶があった。

本年度は、北区第1・第2支部で2名の新入

会員があったが、そのうち、北区武蔵ヶ丘で開業された江頭 優先生(北区第2支部)のご参加があったので、新しい支部会員として参加者に紹介され、本人のご挨拶があった。

また、今回はたまたま熊本市歯科医師会の理事会と重なり参加できなかった田中 弥興先生より御樽の贈呈があり、司会者より披露された。

次に、河上 正先生のユーモアたっぷりの乾杯の音頭により歓談に入った。

前述の通り、今回は熊本市歯科医師会の理事会と重なったため、役員の方々が参加できなかったことが残念だったが、宮本 格尚会長が理事会を少し早めに切り上げて参加してくれたので、その後は更に盛り上がった。

最後に、藤波 好文先生の閉会のご挨拶により幕を閉じた。

今回、諸事情により、参加者が合計16名とやや少なかったのが残念だったが、宮本会長含めて参加者17名大いに盛り上がり、様々な忌憚のない意見が飛び交い、支部の親睦の目的が十分達成された。今後も、まず支部会の参加者を増やすこと、楽しい活気のある支部を築いていくことを目指していきたいと思う。

最後になったが、今回司会を務めていただいた中嶋先生には、いつも支部会の横断幕を達筆な字で作成していただき、本当に感謝しています。

(北区第2 谷口守昭)



古稀・還暦・厄のお祝いを行いました

新人です！よろしくお願ひします

新 入 会 員 紹 介



氏 名 伊藤和之(第2種会員・南区第1支部)
診療所名 伊藤歯科医院
(診療所) 〒861-4101
熊本市南区近見1丁目13-5
電 話 / 096-325-6565
FAX / 096-325-6594

生年月日 昭和52年8月20日
趣 味 ドライブ・旅行・バドミントン
好きな言葉 粉骨碎身



氏 名 友枝 圭(第2種会員・北区第2支部)
診療所名 友枝歯科医院
(診療所) 〒861-8001
熊本市北区武蔵ヶ丘5-1-16
電 話 / 096-339-4593
FAX / 096-339-4593

生年月日 昭和55年10月16日
趣 味 音楽鑑賞
好きな言葉 色即是空



氏 名 原田 華(第1種会員・南区第1支部)
診療所名 瀬口医院はな小児歯科
(診療所) 〒861-4112
熊本市南区白藤2丁目2-38-2F
電 話 / 096-327-9741
FAX / 096-327-9742

生年月日 昭和52年8月2日
趣 味 料理
好きな言葉 笑い声のないところに成功はない



氏 名 秋吉愛花(第1種会員・東区第2支部)
診療所名 なないろデンタルクリニック
(診療所) 〒862-0920
熊本市東区月出2丁目1-39 オークヒル本田1階
電話／096-381-4618
FAX／096-381-4619

生年月日 昭和54年3月2日

趣 味 読書

好きな言葉 なるようになる



氏 名 江頭 優(第2種会員・北区第2支部)
診療所名 えがしら歯科クリニック
(診療所) 〒861-8001
熊本市北区武蔵ヶ丘4丁目10-16号
電話／096-338-9631
FAX／096-338-9634

生年月日 昭和54年12月9日

趣 味 野球

好きな言葉 凡事徹底

世界のジョーク

○無人島に男ふたりと女ひとりが流れ着いた。さあどうする？

フランス人の場合：女は片方の男と結婚し、もう一人と不倫する。

アメリカ人の場合：女は片方の男と結婚し、離婚してから次の男と再婚する。

ロシア人の場合：女は好きではない方の男と結婚し、そのことを一生嘆く。

ドイツ人の場合：女と男ひとりが結婚し、残りの男が立会人を務める。

日本人の場合：男ふたりは、どちらが女と結婚したらいいか本社に問い合わせる。

スウェーデン人の場合：男ふたりは愛し合い、女は自分を愛する。



スポーツの広場



あつまるデンタルゴルフ会

10月8日(祝) 14名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 明受 清一	51	49	100	30	70
2位 奈良 健一	45	43	88	15	73
3位 田村 実雄	46	49	95	20	75
4位 三隅 晴具	43	47	90	13	77
5位 中島 健	51	51	102	21	81
B.B. 山室 紀雄	58	47	105	20	85

11月23日(祝) 10名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 三隅 晴具	43	40	83	13	70
2位 明受 清一	51	51	102	28	74
3位 田村 実雄	49	48	97	20	77
4位 北川 隆之	40	49	89	9	80
5位 山室 紀雄	50	51	101	20	81
B.B. 青木 道育	57	50	107	19	88

12月16日(日) 10名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 明受 清一	46	48	94	28	66
2位 北川 隆之	42	40	82	9	73
3位 奈良 健一	43	46	89	15	74
4位 田村 実雄	46	59	105	20	85
5位 合澤 康生	53	48	101	15	86
B.B. 青木 道育	55	53	108	19	89

世界のジョーク 2

○アジアのある貧しい村のはずれ。一人の青年が歩いていると、道の端に奇妙な形をした古いランプが落ちているのを見つけた。それは、なんと魔法のランプであった。煙と共にランプから現れた魔人は、その青年に願いを2つ叶えてあげようと言った。

喜んだ青年は、まずこう言った。

「そうだな。俺はこんな村を出て日本へ行きたいな。俺を日本人にしてくれよ」

「おやすい御用」

気がつくと、彼の姿はすっかり日本人になっていた。手には日本人としてパスポートが握られていた。

「では、次の願い事は何かな？」

しばらく彼は考えていたが、やがてこう言った。「そうだな、俺はもう仕事なんてごめんだな。一生、働きたくないよ」

「おやすい御用」

気がつくと、彼は元の姿に戻っていた。

会 務 報 告

理 事 会

月 日	協 議 題
10月25日	・会務、会計、庶務報告 ・会務、会計、庶務報告 ・会務、会計、庶務報告
11月29日	
12月20日	

厚 生 委 員 会

月 日	協 議 題
10月24日	・新年会打ち合わせ ・派遣代診について ・新年会打ち合わせ ・新年会試食会
11月14日	
12月13日	

医 療 管 理 委 員 会

月 日	協 議 題
10月19日	・救急蘇生について ・労務講演会について ・忘年会について ・救急蘇生について ・医療相談について ・学会報告について ・忘年会について ・国立病院との協議会について ・労務講演会について ・スタッフレベルアップセミナーについて ・カレンダー作製 ・カレンダー作製 ・労務講演会について ・スタッフレベルアップセミナーについて ・年間行事予定の確認
11月 8 日	
11月27日	
11月28日	
12月14日	

広 報 委 員 会

月 日	協 議 題
10月 2 日	・中岳183号レイアウト ・中岳183号第1稿校正 ・中岳183号第2稿校正 ・かわら版打ち合わせ ・予算折衝報告 ・かわら版打ち合わせ ・中岳184号スケジュールについて
10月16日	
10月23日	
11月27日	
12月18日	

地域学校歯科保健委員会

月 日	協 議 題
10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き巡回指導について ・健康フェスティバルについて ・スペシャルオリンピクスについて
11月 8日	
12月10日	
	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き巡回指導について ・健康フェスティバルについて ・スペシャルオリンピクスについて ・障害者歯科検診について ・ケアマネージャー向け講演会について ・歯科健診出務決め

社 保 委 員 会

月 日	協 議 題
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・10月個別指導結果報告 ・シティFM報告 ・来期予算相談 ・12月個別指導割りふり ・熊本市医療費助成について ・平成30年の個別指導の総括 ・平成31年に向けた個別指導対策の検討
11月28日	
12月27日	

学 術 委 員 会

月 日	協 議 題
10月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・学術講演会役割分担 ・来年の学術講演会の日程・講師について ・学術講演会について ・熊本市歯科医師会第2回学術講演会 ・第3回講演会打ち合わせ ・訪問歯科歯科診療研修会について
11月13日	
11月24日	
12月11日	

編	集	後	記
---	---	---	---

平成最後の年、平成31年が始まりました。

昭和天皇が崩御され、昭和が終わった日、私は小学生でした。テレビでは特番が生まれ、小淵恵三氏が新しい元号『平成』を公表するのを見ながら、子供ながらに何かすごいことが起きていると感じたのを覚えています。

今、私の2人の子供が小学生です。この新しい時代の始まりに何を感じるのでしょうか。いずれにせよ、すべての人々にとって、いい時代になればと思います。

(H・K)

熊本市歯科医師会会誌

第 184 号

発行日 平成31年 2月 15日発行

発行所 一般社団法人熊本市歯科医師会
熊本市中央区坪井 2丁目 4番15号

<http://kcd8020.com/>

mail:kda8020@msg.biglobe.ne.jp

TEL (343) 6669

FAX (344) 9778

発行
責任者 宮本 格尚

印刷所 コロニー印刷
熊本市西区二本木 3丁目12-37
TEL 096-353-1291 FAX 096-353-1294